

---

# 真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ~毎日が記念日 365日の小噺~

春夏秋冬 回

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真剣に私と貴方で恋をしよう！－ 外伝？－ 毎日が記念日 3

### 【65日の小嘶】

### 【コード】

N3348W

### 【作者名】

春夏秋冬  
廻

### 【あらすじ】

特に意味のない作者自己満足の作品です。毎日何かを書こうとの思いつきのあと、1年毎日何かしらの記念日がある事に目をつけて適当に作ったものです。見ても面白くなく意味のないものなので自己満足と自己責任でどうぞ。皆さんの雑学の一つの足しにでもなればいいかな？ 毎日のユニークアクセスが100以上……思つた以上に見ていただけて嬉しいです。

7月25日は？

「今日は『かき氷の日』だぞジンー。」

「こきなつどうしたの？ モモちゃん」

「だ～か～ら～！ 今田フ田<sup>フ</sup>田<sup>ト</sup>は『かき氷の日』なんだぞー。」

「ああ、7月25日の語呂合わせでかき氷の昔の呼び方『夏氷（7<sup>な</sup>2<sup>二</sup>5<sup>五</sup>おり）』だね」

「なんだ、そんな意味だったのか」

「知らなかつたの？ ジヤあなんで僕にそんな事を言つたの？」

「かき氷が食べたいー。」

「結局それなんだね……」

10分後。

「セツレーブモモちゃん。今日は『かき氷の日』だけぞ『知覚過敏の日』でもあるから、歯に染みないよう気に気をつけたね」

「もつと早く言えええええ」

7月26日は？

「モモちゃん。今日が何の日か知っている？」

「知らないぞ、私は知らないぞ、ジン、私は今日が何の日か絶対に知らないぞ」

「なんで怯えているの？ 今日つて確か 」

「私は知らないぞ！ 今日が『幽霊の日』だなんて知らないからな！」

「『幽霊の日』？ ああ、この間鉄心さんが言つてたね。何でも

」

「四谷怪談の初演の日なんて知らないからなー。」

「自分で言つてて怯えてどうするんだよモモちゃん。僕が言おうとしたのは『ポツダム宣言記念日』の事だつたんだけど……」

「え？」

7月27日は？

「ジン！　スイカを食つぞ！」

「何モモちゃん。また何かの記念日だつて言つの？」

「そうだ！　今田7月27日は『スイカの日』なんだ！　だからスイカを食つ！」

「食べ物ばつかだねモモちゃんは」

「そもそも何で『スイカの日』なんだ？」

「えつと確か、スイカが夏の果物を代表する『横綱』だから、語呂合わせじゃないかな？」

「7月27日をどう考へればスイカに繋がるつて言つんだ」

「727がそれぞれ『なつな』になるから、『夏』と『綱』の2つを意味して『夏の綱』。それで『夏の横綱』つて意味でスイカなんじゃないかな？」

「考へた奴アホだろ」

「七月二十八日は？」

「なージン、今日が『浪速の日』だって知つてたか？」

「『浪速の日』？ ああ、七月二十八日の語呂合わせで『七二八の日』だね」

「やうだ。だから今日一日は関西弁で話さうと思つてゐるんだね」

「うやうやしく？」

「何でいきなり関西弁なのか分かんないけど」

「ええやないか。なんや樂しそうやんか！ ううーー」と、私は今  
日一日を関西弁で過ごすからなーー！」

「樂しそうに行ひ出せたけど絶対無理だよね……やうこべば『葉  
つぱの日』でもあるんだよね今日は」

7月29日は？

「なあジン。お前はカレーには福神漬か？ それともラッキョウ漬か？」

「またいきなり唐突だねモモちゃん。何？ また何かの記念日なの？」

「ああ、何でも今日は『福神漬の日』らしい」

「なるほど、だから今日はモモちゃんのリクエストでカレーなんだ」「なあジン、何で今日が『福神漬の日』なんだ？ 語呂合せも合わないだろ」

「福神漬の名前の由来が『七福神』だからじゃないかな？ ほら今田は7月29日、『729』でしょう？」

「ややこしいな。もっと分かりやすく田口じゅりょな」

## 「用意の段階は？」

「神！ モモを何とかせんか！」

「どうしたんですか鉄心さん。なんか騒がしいですか？」

「どうもこうもないわー！ お主のせいだモモがどう構わざ門下生  
ドロップキックをかましとるんじゃー！」

「何で僕のせいなんですか？」

「モモがお主に今日は『プロレス観念団』だと教えていたと言  
つておったぞー！」

「いや確かに教えましたけど、その事とモモちゃんのドロップキッ  
クがどう繋がるんですか？ 僕には関係ないじゃないですか！」

「つべつべわんわんとモモを止めてこんかいー。連帯責任じ  
やー！」

「理不眞面目ー。」

7月31日は？

「なあジン。私は人は信じれば空を飛べると思つんだ」

「いつも思つけど本当に唐突だねモモちゃん。それで？ 何でそつ  
思ったの？」

「ああ、何でも今日は『パラグライダーの日』らしい」

「だから信じれば空も飛べると思つたの？ モモちゃんのためにま  
つきり言つけど、人間の身体の構造上、空を飛ぶのは不可能だから  
ね？」

「でもテレビを見ろ！ その人たちは『氣』を身体に纏つて空を飛んで  
いるんだぞ！？ 同じように『氣』を纏える私たちも！」

「うふ。それ以上はなんかヤバイそつだから言わないでねモモちゃん

8月1日は？

「なあジン、『國士無双』って何だ？」

「『國士無双』？ 何でいきなりそんなこと訊くんだ？」

「いいから答える。今の私にはとても重要な事だ」

「別にいいけど……『國士無双』ってのは国中で並ぶ者がないほど優れたた人物のことと言つんだよ」

「ふうん。それ以外に何か意味があるのか？」

「あとは麻雀の役の名前だな。13種すべての？九牌を揃えてそのうちのどれか一つを雀頭（シャントウ）とした役満だ。そういうやあ今日は8月1日『<sup>ハイ</sup>8-1』の語呂合わせで『麻雀の日』だったな……ってモモ？」

「ジジイー！ 国士無双の意味分かつたゾー！ 私にも麻雀やらせろー！」

「何やつてんですか鉄心さん！？」

「あれ？ 今日俺様の誕生日だけど誰も祝ってくれないの？」

## 8月2日は?

「モモ。お母パンツは買つたのか?」

「こきなりなんだクソジジイ。よもや孫娘にまで欲情し始めたのか、近付くなこのペドファリックブルセラジジイ」

「相変わらずいい度胸しどのつ。とこつかどいでそんな言葉を覚えてくるんじやお母は……まあ今はいい」

「気持ち悪いデジジイ。いつたい何の用だ」

「今日が『パンツの日』だとこいつ事を知つとるか?」

「なんだその変態親父が喜びそつな記念日は?..」

「ちゃんとした下着メーカーが決めた記念日じゃバカたれ」

「それは分かつたけど、何で私に言つんだ?」

「今日は女が惚れた男にこいつそりとパンツをプレゼントする日なんじやよ」

「だ・か・ら! 何で私にそんな事を言つんだ!-?」

## 8月3日は？

「私は一度だけでいいから熊になつてみたいぞ。そして思いつきちはちみつを腹いっぱいになるまで食べたい！」

「なんだいきなり？ 生まれ変わつたらつてやつか？」

「こや違ひがい。今日は『はちみつの日』らしい」

「だから熊になつてみたいつて安直だなモモ……」

「知つてたか？ 熊は蜂に刺されて死なないらしいぞ。しかもスズメバチの天敵らしい」

「刺されても死なないといふのよつは、蜂の毒針が届かないだけだろ。熊の体毛はタフシ並みに固いし体毛も結構長いらしいからな」

「ああー やつぱり一度熊になつてみたい！」

「モモの場合スズメバチに刺されても平氣だナゾな」

## 8月4日は?

「『吊り橋効果』と言つものがあるらしいな」

「いつもながら本当に唐突だなモモ。それで? 今日遊園地に来た事とその発言には何か意味があるのか?」

「男女が危険を共に体験すると連帯感や恋愛感情が生まれるといつ効果らしいが、お前はどう思つジン?」

「うん。それはジョットコースターのつべんに座るこの状況で話す事なのか?」

「今だから話すんだ。じつ思つ」

「一種に恋愛勘違い症候群だろ。そもそも俺たちジョットコースターに乗つているだけで危機感を感じるか?」

「そこには盲点だつたな……」

「今日が8月4日の『橋の日』だからだと黙つたが、俺としては『箸の日』の方が妥当だと思つんだけど、お前はどう思つモモ?」

「凄い速さで落し下しているのに余裕だなお前……」

## 8月5日は？

「どうしたんだモモ。じつとダンボールを見て」

「なあジン。人間一人を入れようとすると、どれだけの大きさのダンボールが必要だと思う？」

「……鉄心さんをダンボール箱詰めにでもするつもりなのか？」

「誰がそんな」とするか！？　だた今日が『ハ』の日　うじいから  
ちょっと疑問に思った事を言つただけだろ！？」

「8月5日だから『ハ』の日』か

「やつはいつ事だ。それでどれだけの大きさが必要かな？」

「やけにこだわるな？　本当にただ疑問に思つただけか？」

「…………ああ（言えるわけない。箱に入つてジンの誕生日に『私がプレゼント』なんて恥ずかしい事を一瞬でも考へてしまつたなんて言えるわけない！…）」

## 8月6日は?

「朝から黙祷なんてやつしてメンツベタに事しなきやならないんだ」

「寺院の娘がなに言つてるんだモモ。それに今日8月6日は瓜島の『平和祈念の日』なんだから」

「分かつてゐるけど、川神院は武術の総本山だぞ。あまつやつこつた事には関係ないとthoughtっていたんだけどな」

「それでも寺院の院号ひとじょを貰つているし、鉄心さんは戦争経験者だろ。だから思い入れも一入なんだろ」

「やつこつものなのかな?」

「やつこつものなんだろ」

「私としては『ハムの日』の方がありがたいけどな」

「結局は食べ物なんだなモモは」

## 8月7日は？

「テレビをニュースを見るなんて珍しいな？ 何か興味を引く事でもやつてたか？」

「なあジン。何で仙台の七夕祭りは7月じゃなくて8月にやるんだ？」

「あれ？ モモ知らなかつたのか？」

「知らないから聞いている」

「旧暦だよ。七夕といえば7月7日だけどそれは明治以降の新暦。旧暦の7月7日は新暦では8月6日頃なんだよ。だから今日は『月遅れ七夕』とも呼ばれてる」

「ふうん。だから七夕祭りは8月にやるのか」

「そういう事。それよりもバナナ食べるか？」

「もちろん食べるだ」

（8月7日は『バナナの日』でもあるんだけどモモは知つてたかな？）

## 8月8日は?

「『ひのしたジン』? ほりつと外を見て何か考え」とか?」

「いや、ちょっとな?」

「悩みながら姉さんが聞いてやる。何でも話せ。さあ話せ!」

「もはや齧しだよモモ……大した事じゃないんだけど、ヤマが8月8日は『親孝行の日』だって言つてたからな……」

「何で『親孝行の日』なんだ?」

「88が『<sup>はは</sup>88』『<sup>パパ</sup>88』と読める事と、『ハチハチ』を並びかえると『母・父』と読める事かららしい」

「それがどうして ああ……悪い……お前は両親の顔知らないんだつたな」

「別に気にするな。ちょっと考えていただけだよ」

(今日はお前の誕生日なの忘れてるだろ。ジジイ、今日を誕生日にしたの失敗だつたな)

## 8月9日は?

「メンデベセー。メンデベセー。本当にメンデベセーぞー。ジン  
！」

「だから仕方ないって言つてるだり？ 8月9日は長崎原爆犠牲者  
慰靈平和祈念式典の日なんだから。広島の平和記念の日と同じだろ  
だからって何で私たちまで付き合わなきゃなんないんだ！？ 私  
たちには本当関係ないだろ！」

「戦争を忘れないためだろ。事実俺たちの年代は戦争知らないんだ  
から」

「戦争が起きたら私が戦地にひいて全員を殲滅してやるー。」

「出来ついで怖いぞお前のその発言せ……後でファミリー集めて野  
球でもするか。ちょうど今日8月9日は『野球の日』だからな」

「よしー。ヒツヒツと全員を集めろジンー。」

「うへん……これは違う……これもなんか変だな

「あのモモ。買ひ物に付き合ひのは別に構わないけど、何で帽子選びに俺に似合ひ似合わないを試す必要が？」

「お前に誕生日プレゼントを渡してなかつたからな。今日は『帽子の日』でもあるからつこでにと想つてな

「8月10日で『810』で帽子か。それよりモモ、誕生日プレゼントはみんなから貰つたぞ」

「私個人のプレゼントだ。いいから動くな」

「はいはー

「うへん……これもなんか違う……これも全然似合ひてない！ ああー、その鬱陶しい長い髪をなんとかしひー。」

「なんだよその理不尽はー？ 髪を伸ばせつて言つたのはモモだろ！？」

8月11日は？

「お姉様～！」

「おおワンドー！ じつちだねーーー！」

「ねえお姉様、用事つて何？」

「聞いて驚けワンドー！ 今日は何とワンド子を称える日なのだー。」

「ええ？ アタシ呪われちゃうのー？。」

「いやワンド子、それは『祟る』だ。私が言つたのは『称える』だからお前を褒めているんだ」

「え？ お姉様がアタシを褒めてくれるの？」

「さうだぞ妹よ。今日8月11日はなんと『ガンバレの日』なんだ！ だから頑張っている妹を私は姉として褒め称えてやるー！」

「ありがとーお姉様！ でもアタシは毎日が『ガンバレの日』！ これからもお姉様に近付くために頑張るわよーーー！」

「うん、私の妹は本当にかわいいなー」

8月12日は？

「君が代って正式な国歌じゃなかつたって知つてたかジン？」

「ん？ 一時期問題なつたあれか？ 学校の式典で歌うとかどうかと言つてたな」

「そうそれだ」

「それがどうかしたのか、モモ？」

「いや、今それどうなつたのかと思つてな。今でもよく国歌齊唱で歌われてるだろ？」

「ヤマが言つてたけど、1999年に『国旗国歌法』により正式に国歌になつたらしい。しかも8月12日を『君が代記念日』にしたらしいだ」

「それつて遅すぎじゃないか？」

「遅いだろ。ヤマが言つては歌詞は10世紀の『古今和歌集』の1編で、曲は1880年の明治13年に作られて国歌として扱われたらしい。そう考へると実に119年だ」

「私はそれを知つてゐる大和がおかしいと思うが……」

「同感だ」

「ねえガクト。今日は何の日か知ってる？」

「なんだモロ？ 別にただの何でもない口だろ？」

「違うよ。今田は『函館夜景の日』だよ。1991年から実施されてるんだって」

「そん豆知識なんの役に立つってんだ」

「知らないよりは知ってる方がいいでしょ」

「そもそも何で今日がその『函館夜景の日』なんだよ？」

「たぶん8月1-3日の諧<sup>けい</sup>合<sup>ごう</sup>わせで『8』を『夜<sup>や</sup>』、『1-3』をトランプのスートして『<sup>やけい</sup>景<sup>けい</sup>』。それで『8-1-3』にしたんじゃないかな」

「メンデベ<sup>ベ</sup>ー考え方だな」

「やつ言つたら終わりだけどね」

「まあ夜景は綺麗だと思つぜ。『夜景がやけいに綺麗だな』って言つしな」

「なんて寒<sup>さ</sup>のオヤジギャグ！？」

8月14日は？

「大和知つてた？ 今日は『グリーンパー』って言つりじこよ？」

「なんかの記念日なのか？」

「うん。韓国で記念日なんだけど、8月14日は恋人同士で森林浴をする日なんだって」

「うん。それは分かつたけど何で俺は公園につれてこられた何でお前は服を脱ごうとしているのかな京さん？」

「だつて森林浴って本当は裸でするんでしょう？」

「ど」からの知識だそれは。その俺たちは恋人同士じゃないだろ

「うん。だから今ここで恋人になるつよ大和。好きです付き合つてください」

「お友達として緑色のボトルに入つた安価なジュースを飲んで互いを慰め合おう。本来は焼酎らしいんだけどな」

「知つてたなんてさすが博識な大和。好きです」

「だからお友達で」

8月15日は？

「1945年の今日8月15日、日本は終戦を迎えた。それを忘れないために今日は『終戦記念日』であり、それに伴う使者を追悼するための『戦死者を追悼し平和を祈念する日』もある」

「だから何だつてんだジジイ」

「よつて今日の全国戦没者追悼式に合わせて正午に黙祷をおこなう」「またかよ。いい加減関係ない私たちにそれを強制させるな」

「強制ではない馬鹿孫が。これは義務じや」

「義務でも誰がやるかジジイ。そもそもジジイがその気になれば世界大戦も勝てたんじゃないのか？」

「戦争を個人の思想で決着させていいわけあるか。少しは考えんかこの馬鹿孫が！」

「はつー、どうせ腰が抜け出来なかつたんだりー、私なら一瞬で殲滅させてやるナビナー！」

「相変わらずいい度胸じやなモモー、その性根叩き直してやるー。」

「上等だジジイー！」

「ハイハイ。ワタシたちは準備を進めるヨー、後は任せたヨ、ジン」

「結局俺なんですね」

8月16日は？

「なあ知ってるかタカ？」

「なに岳人くん」

「今日はなんと『女子大生の日』らしいんだよ」

「…………」

「何でも日本で初めて女子大生が誕生した日らしいでな、それまで女で大学の入試の合格者は1人もいなかつたって言うんだぜ」

「…………」

「女子大生だぜ女子大生！　いい響きだと思わないか？　なあタカ？」

「私の可愛い紺鷺刀に何をいかがわしい事を吹き込んでる？」

「げつ！？」

「あ、凛奈さん」

「いい度胸だな島津の坊主。これはアレか？　死ぬ覚悟は出来たと  
いう事か？」

「いや、その、『めんなさい』。」

「問答無用だ」

（岳人くん。凛奈さんがその現役女子大生だと知つたらどう思うかな？）

8月17日は？

「お〜キヤップ、なんだこの大量のパイナップルは？」

「いや〜親父がなんか沖縄で貰つて来たらしいんだ」

「何でまたこんな大量のパイナップルを……」

「何でも今日は『パイナップルの日』らしいぜ。変な日だよな？」

「語呂合わせだろ。8月17日で『817ツプル』」

「ん？ おお！ 言われてみればそうだな！ なんかそう考えると  
おもしれーな！ なあ大和！ 僕たちもなんかそういう記念日作  
るつぜー！」

「作つてどうすんるんだ」

「その日を毎年俺たち風間ファミリーで祝うんだ

「混沌とした宴にしかならない気がするんだが、俺の気のせいいか？」

8月18日は？

「そりゃあ今年の高校野球はどこが優勝するかな？」

「あんま気にならないからな。どこでもいいだろ。俺様はしらん」

「ガクトには聞いてないよ。それより知ってる？ 今日は『高校野球記念日』なんだよ」

「それってどうして？」

「いい質問だヒロ。実は1915年の今日に1回目の全国高校野球大会が始まったんだ」

「人の言葉取らないでよ大和！ ちなみに会場が甲子園に変わったのは第10回から。名称が全国高校野球選手権大会に変わったのは昭和23年からなんだよ」

「無駄な知識。あんま必要ないと思つよモロ」

「大和くんのも必要な知識とは思えないけど、そん辺はどうなの京ちゃん」

「博識な大和、カッコイイ」

「京は結局そこに行くのかよ。俺様には理解できねーよ」

## 8月19日は？

「今日は『俳句の日』らしいからみんなで俳句を詠んでみよっぜー。」「キヤップ。子供の俺たちに季語を含めた俳句は難しい。川柳でいくべきだ」

「じゃあそれで！ 10分後順番に発表だ！」

10分後。

夏の日の みんなと一緒に時間 師岡卓也

夏の夜に 暗闇を照らす 火の大花 直江大和

夏空の 夕立の後に 虹かかる 篠緋鷺刀

夕涼み 縁日廻る 仲間たち 晓神

俺様は 最強無敵の 岳人様 島津岳

冒険が いつでも呼んでる この俺を 風間翔一

どんな日も 夢を目指して 頑張るぞ 川神一子

強い奴 早く私の 前に来い 川神百代

将来は 直江京に なっている 椎名京

「なあヒロ。これはまほや川柳ですらないだろ」

「最後なんか願望だよね。ジン兄」

8月20日は？

「知つてた？ 今日は『交通信号設置記念日』なんだよ」

「またモロの無駄な雑学知識が始まった」

「タクには厳しいなミヤ。ヤマとの反応が全く違う」

「私にとって大和が正義。大和と仲間以外は『ゴミ』に等しいの。分か  
るジン兄？」

「分かりたくないぞミヤ。もつ少し人付き合いをよくしろ。じゃ  
なきやいつかどうしようもなくなるぞ？」

「……ジン兄の言葉も分からぬでもないけど……やつぱり人は怖  
い。いつかまたあの時みたいになるか分かんないもん」

「そうか……」

「僕の話、全く聞いてないよね2人とも……」

8月21日は？

「知っていますかユキ？ 今日は『献血の日』なんですよ？」

「『献血の日』？ 献血をしなさいって日なの？」

「違う。今日は献血制度が出来た日なんだよ。血つてのは昔は売血制度があつて自分で血を売つていたが、1964年にその制をが廢止し、輸血を献血で確保する体制を確立するよう決まつたんだ」

「準の言つ通りです。実際は1978年に完全に確立した制度なんですけどね」

「ふうん……ねえねえトーマ。血つていくらぐらいで売れるの？」

「難しい質問ですね。輸血用のパック400?がだいたい1万8千円前後ですね」

「じゃあ人間の血液つてだいたいどれぐらいあるの？」

「人の血液量はその人の体重の約8%ですよ」

「俺の今の体重が47キロだから約4リットルだな」

「じゃあ準の血を全部売つても18万にしかならないんだ。つまんないな～」

「怖い事言わないでくれー！」

8月22日は？

「8月22日は実は1903年に東京で初めて路面電車が走った日なんだよ」

「おい大和。急にモロが何か語り出したぞ」

「誰だよモロに電車の話を振ったのは？ ガクトか？」

「お、俺様じゃないからな」

「思いいつきつ語るに落ちてるなガク」

「雉も鳴かずんば撃たれないのにね。しょーもない」

「ねえねえ誰かと止めてよあれ」

「無理だよー子ちゃん」

「それでね、それを記念して今日8月22日は『チンチン電車の日』になってるんだ」

「女子の前で隠す事無く卑猥な言葉を吐くとは、成長したなモロ口」

「え？」

「…………あ、止まつた」「…………」

「あつちーなー。」んだけ暑いとハワイに行きたいぜー。」

「何で暑い時にさらに暑い所に行きたいんだよキャップは

「なんでつてその方が楽しいだろーー。」

「楽しむ前に暑さでどうにかなりそうだよ

「ヒロの意見に賛成だ。とにかく今は涼みたいぞ」

「よつしー。俺がウクレレを弾いてやるから楽しめー。」

「話聞けよキャップ！ ていうか何でウクレレンなんか持つてんだよ  
！？」

「さつきやこで『今日はウクレレの日だから君のもあげる』って言  
つてアメリカ人ぽい人が俺にくれたんだよ

「どういう遭遇率なのそれ？ 何をどうすれば『ウクレレの日』に  
ウクレレ持つている人に会うの？」

「キャップだからだ」

「否定できないから怖いよね」

8月24日は？

「今日は『愛酒の日』だぞ！」

「力説しているところ悪いがモモ、俺たちはまだ未成年だ。飲酒なんてしたら鉄心さんに何を言われるか分からんぞ」

「それぐらいは理解している。だからこれを持っていた！」

「…………そ、それは『川神水』……」

「ねえジン兄、いやな予感しかしないんだけど」

「奇遇だなヒロ。俺も今そう思っていたところだ」

「さあ1人1本しか持つてこれなかつたが飲め！ 飲んで楽しもう

じゃないか！」

「既に目的が透けて見えているがモモ」

8月25日は？

「いきなりだがみんなカツプ麺つて言つたら何が好きだ？」

「ホントに急だねキャップ」

「さつきテレビ見てたら今日が『即席ラーメン記念日』らしい。だから気になつて聞いてみた。ちなみに俺はやっぱ王道の『カツプードル』だ！」

「感性にいきてるなうちのキャップは。ちなみに私は『王・じょうゆ味』だ」

「姉さんが言えるのそれ？ 僕は『シーフード一ドル』だな」

「よく突っ込んだね大和。僕は『チキラーメン』かなやっぱり」

「モロ自体がチキンだもんな。俺様は『焼きそば』・『オ』だぜ」

「ガクトもチキンでしょ。私は『職人・坦々麺』。やっぱこれ」

「京は相変わらず辛党ね。アタシは『の達人』よー」

「僕は『ど 兵衛・きつねうどん』。これだけは絶対譲れないよ」

「ヒロの『うどん好きも凄いな。俺は『ス キヤカツプ麺』だ』

「『』『』『』『』『』『』何それ？」

「え？」

8月26日は？

「1789年のこの日、フランスの憲法制定国民議会が『人間と市民の権利の宣言』、つまり『フランス人権宣言』を採択した！」

「歴史的には凄い日だな」

「そして今日8月26日は『人権宣言記念日』でもある！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 僕は今日をもって姉さんの横暴に真正面から戦うことを宣言する！ いい加減舍弟にも人権が必要だ！」

「あのヤマ。盛り上がっているところ非常に申し訳ないんだが……」

「なんだ兄弟？」

「お前の後ろにモモがいるからな」

「…………え？」

「わいこえばモモ」

「なんだジン？」

「武道四天王つて近くにはいないのか？」

「こらめ。葛飾柴又だ。鉄冢と言えばお前も分かるだろ？」

「ああ、あの護らせたら敵はいないつていう鉄冢のことか。あの一族つて葛飾柴又に住んでいるのか。行かないのか？」

「ジジイに行くなつて言われているんだよ。でなきや速攻で勝負に行つてこい」

「当たり前じゃ。わいつておかんとすべ」行くかの前は

「これなつ出でへぬなジジイ。何の用だ」

「なに、葛飾柴田と聞こえての。そつこえば今日が『男はつらう』の日』だと思つて出したか今からDVDを借りに行くんじや

「発音はDVDですか？」

「じやあの

「あのジジイは何が言つたかっただんだ？」



8月28日は？

「そういえば日本民間放送連盟つてところが今日を『テレビCMの日』に制定したみたいだね」

「相変わらず変な情報早いねモロ」

「あれだろ、民放テレビがスタートしたのも今日だろ？だから同じ日で制定したんだろ」

「さすが大和は博識だね」

「なんだろこの差は……」

「落ち込むなモロ。所詮お前はモロなんだ。どれだけ頑張つてもモロなんだよ」

「意味分かんないからねガクト。つていつかその慰め方やめてくれない？ なんかそれ僕の名前を貶されてれる感じがするんだけど」

「ワリィワリィ」

「やつぱりあの2人怪しい…… B-L臭がする」

「そう言つてるお前が怪しいからな京」

8月29日は？

「てめえワン子！ それは俺様の肉だ！」

「早い者勝ちよガクトー！」

「ガクトもワン子も肉ばかり食べてないで野菜も食べなよ」

「はい大和。タレ持つて来たよ」

「ありがいたが京、なんだこのヤバイ感じに真っ赤なタレは？」

「モモ先輩ずるいぞ！ 肉食うだけで人を吹っ飛ばすなよ！」

「ハツハツハツハ！ まさに弱肉強食だなキヤップ！」

「なんだろねこれ……地獄絵図？ ただの焼肉パーティーがなんでこんな混沌とした宴になつたんだろうね。せつかくの『焼き肉の日』なのに」

「最初から分かり切つた事だつたけどな。モモ、キヤップ、カズ、ガクがいる時点でもともなパーティーになるわけがない。俺たちは俺たちで勝手に食べておこう。充分な量は確保してある」

「いいのかな？」

「心配ない。カズもモモも言つてているだろ？ 『早い者勝ちで弱肉強食だ』ってな」

「ジン兄も意外とちやつかりしてるとよね」

「どうしたモモ。じつと携帯を見つめて。迷惑メールでもきたか？」

「メール設定で来ないようにしてある」

「じゃあどうした？」

「これを見てくれ」

「なになに？『ハッピーサンシャイン』？なんだこの明らかに無理矢理作つたような記念日は？」

「830で『ハッピーサンシャイン』だそうだ。どう考へたらこんな語呂合わせになるか問い合わせやりたいのは確かだな。太陽のよつな明るい笑顔の人ための日らしい」

「それでお前は何を考えていたんだ？」

「いや、私たちの中では誰になるかなと思つてな」

「普通に考えてキャップかカズだろ」

「京じゃないのは間違いないな」

「モモでもないのも間違いなぞ」

「何か言つたか『彼氏』？」

「モモの笑顔が一番だと言つたんだよ『彼女』」

「よし、今日は『野菜の日』だな。俺様の博識などいかを見せてやるぜー、おこお前ひー」

「今日はモモ先輩の誕生日だぜー、おめでとうー。」

「誕生日おめでとう姉さん」

「おめでとうお姉様」

「モモ先輩、誕生日おめでとう」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうモモ」

「みんなありがとな。プレゼントも嬉しかったぞ。ドガクト？ お前は私に対するお祝いの言葉はないのか？ つん？ 猶予を10秒やる。それまで言わなければ制裁だ」

「…………あれ？」

「沈んでるー。」

「なんで俺様の時は誰も祝ってくれなかつたのに……なんでだよ……」

…」

「そこがガクトとモモ先輩の違いだよ」

9月1日は？

「今日は『防災の日』ですけど川神院では防災訓練みたいなのはしないんですか？」

「特にはしておらんの。一応建物の耐震補強はしておるが」

「ワタシたちにはあまり地震は意味ないからネ」

「確かに地震が来ても津波が来ても大丈夫そうな人たちばかりですよね。その代表例が鉄心さんとモモですからね」

「ワタシからすれば君も十分に大丈夫に見えるよ」

「ホツホツホツホ。まあそれはそれとして自己で防災対策をするに越した事はない。なんせ今日は9月1日じゃからな。『悔い<sup>9,1</sup>』を残さぬよう、なんての」

（寒い、寒すぎます鉄心さん）

（それは明らかにダメなオヤジギャグです。鉄心様）

「ブリザード級のオヤジギャグだなジジイ」

「なあジン、何で子供は宝くじが買えないんだ？」

「なんだいきなり？ 宝くじを買いたいのか？ 当たりもしないのに」

「当たるかもしないだろ？ いやキヤップに買わせれば一等とは言わなくとも確実に当たりそうだろ！？」

「否定はしないけど無理だろ」

「なんでだ？」

「もし当たったとしても未成年場合、当たりくじの換金は保護者同伴だ。結局は自分ではなく保護者が管理する事になる」

「なんだつまらん」

「それ以前に売り場が『未成年の購入は教育上良くないとして自主規制』してるから、売つてもうつ事すら難しいだろ。ていうかなんでそんな事を考えたんだ？」

「今日が『ぐじの日』だからだ！」

「9月2日だからか……いつも唐突だなホント」

「うわしゃ！ いいキヤツプ！ 俺様が打ちのめしてやるー！」

「くんー 打てるもんなら打つてみろー くわーーー」

「元気だねあの2人は」

「モロ親父臭い。若者はもつと元氣にやるべ。ひとつとあるの中に  
行けば？」

「次はジン兄だね。ガクトがこっちに来る」

「ねえ京知ってる？ 今日は『ホームランの日』なんだよ。巨人の王 治選手がホームランの世界記録を更新したのが今日なんだって」

相も変わらず雑学多いねモロ。あ

あが!? あがくしょりなんで打てねえ

「ジン兄の打つたボールがここまで飛んできてガクトの後頭部に直撃した」

「誰に説明してんの京！？ ていうかホームからここまで200メートル近くあるんだけど！？ いつたいどんだけ飛んだのさ！？」

「だつて、ジン兄だもん」

「納得するしかないじゃ ないか！！」

9月4日は?

「これはズルイよね、モモ先輩」

「ああ、これはないだろ。」こいつら本当に男か?」

「なあヒロ、なんで俺たちはこんな事をされてさうに男の尊厳を踏み躡られるような言葉を言わねきやいけないんだ?」

「何でだらうね。別に何か特別な事してないのに」

「だからズルイんだって事にジン兄もタカの気付くべき」

「そうだぞ。何でお前ら男なのに女の私たちより髪の質がいいんだ」

「それこそ理不尽だろ? だからって何で髪の毛を弄られなければならぬんだ」

「「今日が『くしの日』だから」」

「物凄く意味不明な理由だよねそれ……」

9月5日は？

「そりいえば今日つて『国民栄誉賞の日』だね」

「いきなりだな大和」

「うん、ふと思い出したんだよ。1977年に通算ホームラン数の世界最高記録を作った王治が、日本初の国民栄誉賞を受賞した日が今日なんだつて」

「あの賞の基準つていつたい何なんだ？」

「前人未到の偉業を成し遂げ、多くの国民から敬愛され、夢と希望を与えた人に贈られるらしいよ姉さん」

「ふうん、じゃああれか？ 紛争地帯に行つて両軍を殲滅すれば国民栄賞を貰えるんだな？ 前人未到の事だぞ？」

「いや姉さん？ 確かに前人未到だけど国民栄誉賞は贈られるものだからね？ 欲しいからといつて貰えるものじゃないから。その辺勘違いしないでね？」

「なんだつまらん」

「それ以前にそんな事しても国民に『貰えるのは恐怖しかないよ』

9月6日は?

「お兄ちやん!」

「こわなつづいたモモ、何か悪いものでも食べたか?」

「お兄ちやん!」

「//ヤ、悪ふざけはヤマに対しだけやつてくれ」

「お兄ちやん!」

「ん? どうしたカズ?」

「「納得いかない!」」

「なんだ? いつたいづつしたモモ、//ヤ」

「だから言つただる。兄弟から見て妹として接する事が出来るのは  
ワン子だけだつて。そもそも姉さんは年上だし京は妹つて柄じやないだろ」

「いつたい何なんだヤマ?」

「悪い兄弟。今日が『妹の日』らしいから姉さんが3人の中で誰が  
一番妹らしく振る舞えるかって言つ出して……」

「なるほどな。ていうかモモの彼氏である俺にとつてカズは実際妹  
みたいなもんだし、いつかは本当にそつなるだらうしな」

「いきなり恥ずかしい事言つなー！」

9月7日は？

「「」の なんのき～きなる 」」

「どうしたワン子？ いきなり歌いだして」

「あ、お姉様！ 知つてた？ 今日つて『CMソングの田』なんで  
すつて。大和が言つてた」

「ふうん、だからさつきの歌か」

「うん！ CMソングつて言われて真つ先に思いついたのがあの歌  
なの！ お姉様は何を思いつく？」

「私か？ 私は『ピク ン』だな」

「ピ、ピク ン？」

「ああ、ゲームのCMであつただろ？ 『赤ピク ンは火に強い』  
とか言うのが」

「確かにあつたけどそれがいつたい？」

「いやなに、あのピク ンの種類が仲間たちにかぶる事があつてな。  
ほらキャップは火に強そудし、ジンは溺れる事ないだろ。タ力な  
んか飛べそудだし、ガクトは力持ちだろ。それに京は間違いなく毒  
持つてるし」

（お姉様の感性つて時々分からぬわ……）

「う～勉強なんて嫌いよお」

「文句言わないワン子。最低限の事はやつておかなきや恥かくのワン子だよ」

「分かつてゐるわよ京」

「じゃあ一つ問題。1951年の今日、アメリカで何があった？日本にも重要な事だよ」

「ええっと、ええっと」

「……終戦から6年、日本と連合国間の対日講和会議が開かれて時の総理、吉茂が調印した条約だよ」

「分かつたわ！　『バカヤロー解散』！」

「お前がバカヤローだ。『サンフランシスコ平和条約』と『日米安全保障条約』でしょうが。それを記念して今日は『サンフランシスコ平和条約調印記念日』。何で変な事は覚えて必要な事忘れてんの」

「！」怖いよ京

「バカヤローの言葉に傾ける耳は持つてない」

「い、いやああああ！」

9月9日は?

「緋鶯刀、温泉に行くぞ!」

「うん、行つてくれば? まとまつた休みが入つたんだよね」

「何を忽けてこるんだ。お前も行くに決まつてゐるだろ。そつと準備しの」

「あの凜奈さん? 僕今日も明日も学校があるんですけど?」

「そんなもの知らん。私はお前も連れて行くと決めてこりんだから学校の事なんかどうでもいい」

「どうでもよくないからー。何で今日になつていきなり温泉に行くとか言つ出したの? こつもならもつと計画的に準備してゐでしょ」

「今日9月9日は『温泉の日』だ。大分県の九重町が町内に『九重九湯』と呼ばれるほど温泉が点在してこりんから制定したらしー」

「だから?」

「だからだ

「意味分かんないよー?」

9月10日は？

「ねえみんな知つてた？ 今日つて『カラーテレビ放送記念日』なんだよ。エテルと民放4社がカラーテレビの本放送を開始した日なんだ」

「またモロの要らない豆知識が始まつたよ」

「京ちゃん、その言い方は酷いよ」

「豆知識、雑学つていうのはひけらかしたくなるのが人間の性だよ」

「つていうが、なんで京とタカと大和しか聞いてないの？」

「こんな時に話してんだから聞くわけないだろ」

「キヤップ！ それアタシが狙つてたのに！」

「風を止める事は誰にも出来ないぜー！」

「モモ先輩！ 可愛い後輩に恵んでやらんガクト」

「お前は可愛くないから恵んでやらんガクト」

「まあ分かつてたけど……ていつか何で『910の日』だからといつて牛タンオンラインの焼肉パーティーなのさ……」

9月11日は？

「そういういえば最近、公衆電話を見なくなつたな」

「ん？ 病院とか携帯の使用を制限されている所とか、駅や空港とかの公共交通機関のステーションにはちゃんと置いてあるわ？」

「そりなんだが、道端ではめつきり見なくなつたなあと」

「で？ こきなつづいたモモ」

「いや、大和から今日が『公衆電話の日』と聞いてな、道すがら公衆電話があるか見ていたんだ」

「まあ携帯の普及の影響だろ、確かにコンビニやスーパーの近くにあつたやつは撤去されたしな」

「……おこジン、オチがないぞ」

「……こつたい何を言つてるんだお前は」

9月12日は？

「なあワン子、今日は『マラソンの日』とされているが、なんでマラソンの距離が42・195キロなのか知っているか？」

「へ？ 限界に挑戦する『死に行く』ってい意味じゃないの？」

「は？『死に行く』？」

「おお。確かに『死に行く』だ」

「感心するな京、つて誰だそんな語呂合わせの意味を教えたのは？」

「ガクト」

「よし後で殴つておいつ。本当の由来は紀元前の『マントラの戦い』で勝利したアテネの兵士が勝利の報告のために走つた距離36・750キロだったんだが、1908年のロンドンオリンピックの時にアレキサンドラ女王が『子供たちにスタートを見せてやりたい』と言つ我が家まで今の距離になつたんだ」

「ふうん、で？ それを知つて何かいい事あるの？」

「さあ？」

「だつたら変な事に時間取らせないでよー！」

「私の大和の言つた事を変な事だと？」この犬！」

「JRおでかけ...?」

「お前のじやなにからな、京」

9月13日は？

「なあクリス、今日が『乃木大将の日』なのは知つてたか？」

「ノギタイショウノヒ？ 大和、何だそれは？」

「お前の性格からして知らないのは意外だつたな…… 1912年の  
今日、乃木希典のぎ まれすけつて軍人とその夫人が明治天皇たいそうの大喪たいそうの礼つて言う  
国葬の日に自刃して殉職した日なんだ」

「おお！ 主君の葬儀の日に哀悼の意を示し思ひ偲び、自ら果てる  
とはまさに武人の鑑！ さすが武士道精神の国だ！」

「大和、私も大和が死んだらすぐに後を追うからね？」

「おお！ この国は大和撫子にも武士道精神が通ずるのか！ 夫の  
死に付き従う妻！ なんて素晴らしい！」

「いや、京は俺の妻じゃないし恋人でもないからな？ そもそも今  
その考えはナンセンス…… つて聞いてないね」

9月14日は？

「ねえ大和、これなんかどう？」

「なあ京、お前はいつたい何がしたいんだ？ いきなり呼び出した  
と思ったら女性下着売り場に問答無用で連れてきて衆人觀衆のもと  
お前の下着を選ぶ。これは何かの罰か？ それとも俺に死ねど？」

「大和は知つてた？ 今日は『メンズバレンタインデー』って言つ  
て、男性が女性に下着を送つて愛を告白する日なんだよ」

「お友達でお願いします！！」

「大声で頭まで下げる速攻でお友達宣言！？ いくらなんでもそれ  
はないよ大和……」

9月15日は？

「なあまゆっち、今日が『老人の日』なのは知つてたか？」

「もちろんです。2003年から祝日法の改正によつて、それまで9月15にだつた敬老の日が9月第3月曜日となるのに伴い、従前の敬老の日を記念日として残す為に制定されたからです」

「おお～！ まゆっちすっげー！ なんて博識なんだ！」

「ありがとうござります松風。今日ははじ老人を見かけたら優しくしましようね」

「それはいいけどまゆっち、同級生にすら声かけられないのにお年寄りに優しく声を掛けられるのか？」

「はうあー？」

「しまつたー？ オイラがまゆっちの心をえぐつちまつたぜー！ こ  
うザクりと遠慮なくえぐつちまつたぜーーー！」

「何やつてんだらうね、まゆと松風は……」

9月16日は？

「よつしやー また当たつたぜー！」

「何で最後で逆転されんだよー？」

「7・3か……2番人気と3番人気だな」

「おータク、ラジオと新聞を片手に何をやつているんだあいつらは？」

「あ、ジン兄。いや今日が『競馬の日・日本中央競馬会発足記念日』だつてキャップに教えたら……」

「ああ、競馬の予想をやろうとも言つて出したのか。それで結果は？」

「今8レース終わつてガクトは負けが込んで、大和は五分五分。キャップはまさかの8連勝」

「性格が見て取れるな。しかもキャップは相変わらずの天運」

「そうだね。ジン兄もやつてみる？ 意外と面白いよ」

「俺はラジオや新聞を見てやらない。やるなら現場に行つてやる」

「馬の調子を直接見るの？」

「いや、勝たせたい馬の野生の本能を刺激して逃げ脚を速くさせて、

それ以外の馬に殺氣をぶつけて居竦ませて勝たせなよつとする

「なにその超人めいたイカサマー…？」

9月17日は？

「そういうやあ一コースで今日は『モノレール開業記念日』だって  
言つてたんだけどよ」

「なにガクト？ 詳しく知りたいの？ いいよ教えてあげる。あの  
ね、なんで今日が『モノレール開業記念日』になつたかつて言つと  
ね、1964年、昭和39年の今日が、浜松町～羽田空港、今はの  
羽田空港駅とは別なんだけど、その間で東京モノレールが開業した  
んだ。あ、ちなみにこの沿線は日本初の旅客用モノレールで、遊覧  
用のものはそれより7年前の1957年、昭和32年に上野動物園  
に作られたものが最初だつたんだつて」

「あ～あ、始まつちやつたわね、モノの機械語り」

「しかも記念日雑学も入つて止まりそつにないね」

「おいでひすりやあいいんだよ？ 教えてくれワン子、タカ」

「「責任とつて最後まで聞けば？」」

「血も涙もねえ幼馴染みたちだなオイ！」

9月18日は？

「知つてたがガクト、モロ。今日は『かいわれ大根の日』なんだぜ」  
「いきなりなんだよキャップ。ていうかなんでそんなん知つてんだよ」

「いやー、バイト先のおばちゃんがさ、かいわれ大根を大量に買つて  
いたから『どうしたんですか』って聞いたら、『今日はかいわれ大  
根の日なのよ』って教えてくれたんだ」

「それは分かるけど、なんでかいわれ大根を大量に買つてんのさその  
人？」

「さあ？ 知らん。料理にでも使うんじゃねーか？」

「大量のかいわれ大根を使つた料理……いつたいどんな料理か想像  
つかねーよ」

「ガクトのかーちゃんも大量に買つていたぞ」

「嘘だろ！？」

「ガクトの家にその正体不明のかいわれ大根料理が出てきそうだね」

9月19日は？（前書き）

注・独自見解設定あり

9月19日は？

「そういえば今日つて『苗字の戸』なんだって」

「ああ、確か1870年・明治3年の今日、戸籍整理のため太政官布告により平民も苗字を名乗ることが許されたらしいな」

「へへ俺たちの苗字つてその頃付けられたのかな？ みんなに聞いてみようぜー」

「川神は古いぞ。土地の名前になるほどだからな」

「椎名も古じよ。遅くとも江戸後期にはあったし」

「島津はどうだらうな……かーちゃんが言つには江戸末期には名乗つてたらしいぞ」

「黛も歴史があります。江戸初期頃にはありました」

「フリードリヒもドイツの古くからの軍人家系だ。200年以上の歴史がある」

「簾は江戸以前からの家だよ。発祥は室町時代つて聞いてる」

「暁は紀元前かららしいな。ざつと2000年以上だ」

「結局僕たち3人だけだね……」

「面白くないぞ大和！ 直江なのになんで古くないんだ！」

「人の苗字にケチつけるなよキャップ！」

9月20日は？

「よつ、はつ、ほつ」

「犬は何をやつているんだ？」

「あれはお手玉ですね。幼い頃に母上と一緒に遊んだ記憶があります」

「おお！ あれがOTEDAMAか！ KIを纏つて投げると全てを破壊するといわれる大和撫子の護身武器！」

「オイ」ラクリ吉！ 一体全体どこからの知識だよそれってばYOKI？」

「うん？ 大和から聞いたんだが、何でも今日は戦国の頃、城内に侵入した忍をその城の奥方が手に持っていたOTEDAMAで撃退した伝説の日らしいではないか」

「クリスさん、お手玉とは布で作られた球状のものがあやつて落とす事なく、多くの数をジャグリングする昔からの日本の遊戯ですよ

「確かに今日は『お手玉の日』だけど、そんな伝説なんてあるわけねーってばよYOKI！」

「なんだとー？ オのれ直江大和！ またしても騙してくれたな！」

「それを信じるクリ吉がどうかとオイラは思つてばYOKI！」

「 」 じの松風、クリスちゃんは純真な方といつ事ですよ」

「純真にも限度があると感づつてばよ」

9月21日は？

「見よ！　俺様の姿を…」

「[氣色]悪こマイナス100点」「[膚焼だマイナス100点】

「なんどこんな動きにぐこ格好しなきゃなんねーんだ」

「なかなか、でも無理がある20点」「やつぱり変だな10点」

「姉さんの命令とは言え、男が着るものじゃないだろ」

「さすが大和つて言いたけど今回40点」「結構いけるな40点」

「恥ずかしいよね」「れ……最悪でもカツラは被りたいよ」

「やつぱりモロは似まつ。60点」「いいぞモロロ。65点」

「背が高いこと似合わないわ」「れ……」

「凄いねジン兄。70点」「後姿がヤバいぞジン。80点」

「これは何？　僕に対する挑戦状？」

「さすがタ力！　100点満点！」「文句なしだ。お前は性別を間違えた100点！」

「なあ犬、まゆつけ、何をやつてこるんだみんなは？」

「今日が『ファッショントリオ』らしいので、モモ先輩考案の『男子限定女性着物ファッショントリオ』だそうです」

「面白いでしょークリー」

「意味が分からん」

9月22日は？

「ねえねえ今日って実は『One Web Day』で『オンライン生活を祝う世界的な記念日を作り、維持し、進展させ、普及させる』つていう世界的なイベントがある日なんだよ」

「なんだそりや？ ネット廃人たちのイベントか？」

「違うよガクト！ ネットが出来てよかつたねっていう日だよ」

「なにが違うんだよ」

「直接会わなくとも人と繋がりを作る事の出来るネット環境をもつとよくしていこう、それをもつとみんなに知つてもらおうってイベントなんだよね？」

「その通りだよ、さすがタカ！ やつぱガクトとは頭の作りが違う

「ケンカ売つてのかモロー？」

「でも卓也君、22日の記念日語りは意味ないよ。あれ見てよ」

「ジン〜。今日は夫婦の日だぞ〜」

「そうだな」

「大和、今日は夫婦の日だね」

「俺たち友達だろ？」

「なるほど……毎月22日は『夫婦の日』だったね……」

9月23日は？

「なあ兄弟、ヒロ、万年筆の名前の由来って知ってるか？」

「いきなりどうしたの大和君」

「今日が『万年筆の日』だからだろ。1809年の今日、イギリスのフレデリック・バーソロミュー・フォルシューが金属製の軸内にインクを貯蔵できる筆記具を考案し、特許を取った日らしいからな」

「よく知ってるねジン兄」

「なら話は早い。万年筆の名前の由来は2つの通説がある。1つは『 fountain pen (泉のペン)』と海外で言われていた事と、半永久的に溢れ出るものを『泉のように湧く』と言つ事から少し捻つての『万年筆』と呼ばれるようになつたらしき」

「ふうん、それでもう一つは？」

「当時、万年筆の輸入を開始した丸善の店員、金沢万吉さんが一生懸命に販売していた事から『万さんの筆』と呼ばれるようになり、いつしか『万年筆』になったという説だな」

「よくそんなこと知つてたなヤマ」

「2つともなんて言つが……無理矢理感があるよね」

「どうか、今日は普通に秋分の日でいいだろ……」

9月24日は？

「凛奈さん。休みだからっていつまでも寝てないでそろそろ起き  
てよ」

「うーん……」

「書斎の本棚の一番上の右端の段にあるアルバム全部破棄するよ」

「私の紺鷲刀成長記録<sup>ベストマイコレクション</sup>[写真集を捨てるとは言語道断だ！」

「起きたね。それじゃあパジャマも洗濯するから着替えてね」

「面倒くさ……今日せどり<sup>セドリ</sup>も行かないからそのままの恰好でい  
いだろ」

「書斎のビニアオラックにあるテープ全部廃棄するよ」

「私の紺鷲刀成長記録<sup>レジョンファイコレクション</sup>[記録映像集を捨てるとは悪逆非道だぞ！」

「じゃあ着替えてね」

「とかか紺鷲刀、いつたいお前は何をやっているんだ？ 使い古  
しのHプロンなんか着けて」

「今日が『清掃の日』らしいから自分の家を掃除しきつてキヤッピ  
の命令。ちゃんと証拠<sup>写真まで</sup>撮つて来いつて徹底ぶり……なんで  
一眼レフを構えているんですか凛奈さん？」

「ん？ なんでって、お前が証拠写真いるって言つただろ。任せろ  
100枚あるうと撮つてやる」

「一枚で十分だよ……」

9月25日は？

「なあ、知つてたか『女王蜂』。今日つて『主婦休みの日』なんだつてさ」

「それがどうした」

「生活情報紙『リビング新聞』が日頃家事を主に担当している主婦を対象に読者アンケートを取り、その結果1月と5月と9月の25日を主婦がリフレッシュをする日、『主婦休みの日』と制定したらいいぜ」

「だから何であたいにそんな無駄なうんちくを聞かせるんだ」

「え？ だつてだからあんた今日休みなんだろ？」

「あたいは主婦じゃねえ！ メイドだ！ それに今日は定休だ！」

「ふつー」

「……何がおかしい？」

「あんたの主婦姿を想像したら爆笑しかない。またしても俺を笑い殺す気か？」

「……テメH……ブチ殺す！」

9月26日は？

「モロはパソコンが得意なんだろ？」

「得意つてほどじやないけど、うん、みんなよりは詳しいね。けどどうしたのクリス？」

「いや、大和が『パソコンや機械関係の事はモロに聞け』 というものがだから……」

「何か知りたい事でもあるの？」

「別にないが気になつて聞いてみただけだ」

「ふうん……あ、そうだ、ねえクリス、今日が『ワープロの日』 だつて知つてた？」

「いや知らなかつたな。そんな日があつたのか？」

「うん、1978年・昭和53年の今日、東芝が世界初の日本語ワープロ『JW-10』を発表したんだ。発売は翌年の2月だつたんだけど、当初の値段、いくらだと思つ？」

「20万ぐらいか？」

「630万円」

「な？ なんだその値段は！？」

「そもそもワープロっていうのは『ワードプロセッサ』の略称で、コンピュータで文章を入力、編集、印刷できるシステムのことなんだ。ワープロ機能をROM化して組み込んであるワープロ専用機と、汎用的なパーソナルコンピュータで動作するワープロソフトがあるんだけど、基本ワープロと言えば前者の事を指すんだ」

「え、ええと……」

「さつき日本で初めてって言つたけど世界初のワープロは1964年に作られた」

「いつたいこの話はいつまで続くんだ？」

9月27日は?

「何を見ているんですかタカさん?」

「うん、ちょっとこれを見

「自動車教習所のパンフレット?」

「おひタカつた。なんだお前、バイクの免許でも取るのかい?」

「うん、岳人君が持ってきたからちょっと見てただけ」

「あ、見て下さい、今日は日本の女性が初めて自動車の運転免許を取得した『女性ドライバーの日』らしいですよ」

「そういえばタカつちの叔母さん、凛奈さんは免許持ってるのか?」

「うー?」

「タカさん?」

「…………お願いです…………お願いですから速度を抑えて下さい…………」  
これは公道です100キロはやめて下さい…………スポーツカーだからつて無理にドリフトしないで下さい…………カーブに向かってアクセル踏み込まないで下さい…………高速道路は高速で走る道路じやありません…………お願いですかから200キロで走らないで下さい…………」

「あのタカつちが震えてるぜ…………」

「こうしたこんな運転をされる方なんでしょうか……」

9月28日は？

「個人情報の保護に関する法律……いわゆる個人情報保護法が2005年4月1日に全面施行になったのは知ってると思つたが」

「こきなつどうしたヤマ？」

「プライバシー云々言われ出したのつていつからか知つてるか？」

「その頃じゃないのか？」

「それが違うんだよ。実は1964年・昭和35年の今日、三島由紀夫の小説『宴のあと』でプライバシーを侵害されたとして有田八郎元外務大臣が作者と発行元の新潮社を訴えていた裁判で、東京地裁がプライバシー侵害を認め、三島由紀夫に損害賠償を命じる判決を出したんだ。これが日本でプライバシーが争点となつた初めての裁判だつたため、今日が『プライバシーデー』と制定されたんだ」

「ふうん、で？ それで何が言いたいんだ？」

「……兄弟、俺にはプライバシーがあるんだろうか？」

「ねえモモ先輩、大和つたら夜中1時に起きたかと思うと、おもむろに自己燃焼促進の本を取り出してじっくり見入った後、枕元にテッシュ箱をおいて30分にもわたる」

「京おおおお！ 俺のプライバシーを返せえええ！」

「強く生きるヤマ……」



「」「あ～ん？」

「…………」

「」「やん？」「やん？」

「こつたこぢりしたモモ。ネコ!!!シッポまで付けて……ハロウインには1ヶ用ほど早こだ？」

「彼女が可愛い格好をしてこるのに最初に突っ込むといのがそこか？ 普通なり『可愛い』とか言つだり、彼氏なり？」

「こや、可愛いことは思つてゐるけど、どうしてネコ!!!なんだ？」

「何でも今日は『招き猫の日』」

「だから猫の格好なのか。安直なのはこの際、置ことくとして、なんど今田が『招き猫の日』になるんだ？」

「9月29日で『929』ってこつて招き猫の日が9月29日だ」

「強引な語呂合せせな気がするがまあ理解は出来た」

「やうか。なうかねやうひひを向こへくれてもこことじやないのか？ なあ彼氏？」

（可愛あざて直視なんか出来るか！ ヤマカミヤだな、入れ知恵し

たのは！　後で絶対にお仕置をきしてやるから待つてやー。）

「ガクト……つこひやつちやつたね」

「やうだな、ようこによつて今日やるとはな」

「こつかやるとは思つていたけど……僕が注意していれば」

「モロは悪くない。悪いのは馬鹿なガクト」

「京の言つ通りだモロ、悪いのは無知なガクトなんだ」

「ありがとう大和、京」

「おいいつたい何なんだこの雰囲気俺様がいつたい何をした！？」

「くるみ、握り潰したでしょ？」

「何だよ京、そんないつもの事だろ？」

「今日は『くるみの日』でくるみ愛好家の人たちが制定した日なんだよ。知つてた、ガクト？」

「それがどうしたってんだモロ。別に知らなくても関係ないだろ！」

「お前は何の意味もなくくるみを握りつぶした事で、くるみ愛好家さんのくるみ大好きな心を踏み躡つたんだ！ これは冒瀆だぞ！ 謝れ！」

「え？ 俺様が悪のか？ つてかなんで大和はそんなに興奮してんだ？」

「「「いいから謝れ！」」」

「ぐるみ愛好家にか？」

「「「違う！ ぐるみの木に、あなたの子供を握り潰してすみませんって言え！」」」

「一気に重くなつたな……つーか何？ これってイジメだよな……？」

10月1日は？

「どうよモロ？ 僕様似合つだろ？」

「ガラの悪いヤクザだよね。僕はどうキャップ？」

「まんまオタクじゃねーか！ 僕はどうよジン兄！」

「キャップはサングラスの方が似合つそうだな。僕は似合つか？ モモ？」

「ああ、お前はどんな格好でも似合つだ。私はどうだクリ？」

「意外と似合いますねモモ先輩。自分は似合つだろつか？ どうだ犬？」

「教育ママね。『やります』とか言つてほしいわ。アタシはどうまゆつち？」

「えつと」「少しばかして見せるぜワンドちゃん！ まゆつちはどうだタカつち？」

「僕はない方がいいと思つけど悪くないよ。僕はどうかな大和君？」

「あー……悪い、女にしか見えん。聞きたくないが僕はどうだ京？」

「カツコイイ……操を捧げたいよ大和……期待してないけどじつ、ガクト」

「ひつぱう割増しだな京」

「だけど買つわけでもないのこメガネ屋で何やつてんだうつね僕たち」

「今日が『メガネの日』だからだろ? キャップと姉さんの決定には逆りえないよ」

10月2日は？

「2007年の6月、国際総会で今日が『国際非暴力デー』と制定された！」

「なんでだ？」

「それは今日10月2日があの有名なインド独立運動の指導者で、非暴力を説いたマハトマ・ガンジーの誕生日だからだ！」

「へえ、そういうやあの人、ノーベル平和賞の授与を5回も辞退してるらしいな」

「ああ、素晴らしい人だ！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 僕は今日！ 姉さんに暴力の空しさを説いてやりたいと思つて！ いい加減理不尽な暴力には耐えられん！」

「以前にもこんなやり取りがあつたような気がするが……盛り上がつてているところ非常に申し訳ないヤマ」

「なんだ兄弟？」

「今回もお前の後ろにモモがいるからな」

「…………え？」

10月3日は？

「今日は『登山の日・山の日』らしいけど、みんな一度は登つてみたい山つてある?」

「また唐突だなモロ。10月3日で『103<sup>とさん</sup>』の語呂合せか」

「私は大和の股間の山に」

「下ネタ禁止だミヤ」

「俺様もちりんチョモランマだぜ」

「おお！ 俺も登つてみてー！」

「自分は富士の山だな。日本の象徴だ」

「いいですね、私も富士山には一度登つてみたいと思います」

「富士山なんて登り飽きてるわ」

「何で、一子ちゃん？ ああ川神院の修行の一環？」

「その通りだタカ。だけどあんなもん3時間もあれば往復できるなあジン？」

「最高6往復したか？」

「姉さん、兄弟……頼むから人間の規格で喋つてくれ

10月4日は？

「知つていろか緋鶯刀、今日は『天使の日』らしいぞ」

「『天使の日』？ ああ、語呂合わせで『104<sup>へんし</sup>』だね」

「ところで緋鶯刀。お前は天使と聞くと何を思い浮かべる」

「何つて、普通に背中に翼の生えた人でしょ？ よく神の使いとか言われて神話とか伝承とかに登場する」

「ふむ、貧困な想像力だな」

「作家の凛奈さんと一緒にしないでよ。急に言われて思いつくのはありきたりな想像ばかりだよ」

「唐突に聞くが、今お前が『執心のあの子の事』だが」

「『執心つて……そんなんじゃないからね。でも、まゆがどうしたの？』」

「胸のサイズ、およびブラのカップは幾つだ？」

「なつ！？ 急に何を言い出すの凛奈さん！？」

「知つていたが緋鶯刀、今日は婦人下着メーカーのトリンプインターナシヨナルジャパンが2000年に、同社の製品『天使のブラ』の1000万枚販売達成を記念して制定されたんだぞ。だから『天使の日』だ」

「そんな知識、知りたくなかったよ！」

10月5日は？

「ワン子」

「やつぱ体育かな？ 大和」

「政治経済だな。タク」

「情報処理とかかな。ジン兄」

「何でも出来そうだが、数学とか似合いそうだな。タカ」

「国語だな。なんかそれっぽい。クリ」

「歴史ですね。詳しそうです。モモ先輩」

「思い浮かばねーよ。保健体育？ まゆつち」

「家庭科とかじゅね？ キャップ」

「想像できない。あえて言つなら考古学？ ガクト」

「体育以外出来ないでしょ。京」

「なんでだろう。養護教諭しか思い浮かばない。っていうか、そもそも全員が教師やつてるイメージが全くない気がするのは俺の気のせいかな？ 兄弟？」

「まあそつ言つなヤマ、ただの遊びだろ」

「今日が『世界教師デー』だからって、なんで教師として似合いで  
うな科目を言い合わなきゃならないんだ……」

「『すぐやる課』って知ってる？」

「すぐやるかつて……早めに取り掛かる事だろ？ それぐらい俺様も知ってるよモロ」

「違うよ。今日10月5日は1969年・昭和44年に千葉県松戸市の市役所に『すぐやる課』っていう課が出来たんだよ」

「日本の役所にはそんな課があるのか」

「うん、何でも当時の市長の発案で『すぐやらなければならぬので、すぐやり得るものは、すぐにやります』をモットーに、役所の縦割り行政では対応できない仕事に、すぐ出動してすぐに処理をする事を目的に設置されたんだ」

「住民のための課か。素晴らしいな」

「それとなクリス、その市長は松本清さんで「ラシクストアの『スマートヨシ』の創業者なんだぞ」

「引っかかるないぞ大和。為政者が商業者なわけないだろ」

「いや、それ本当なんだけどね……」

10月7日は？

「さうそう聞いてくれよ。今日も、車上狙いしきりとしてた奴らが出てくわしたから一網打尽にしてやつたんだ」

「犯罪を未然に防ぐとは、たゞがキャップだ」

「でも危ないです、余り無理しないで下さー」

「それがさあ、立て続けに5回も遭遇しちまつたんだよなこれが」「むつ。日本はそんなに車上狙いが多いのか？ 1日で5件とは……」

「こいつの遭遇率の方がおかしいだけだからな！ そつ簡単に車上狙いやつてる奴と遭遇するなんてありえねーんだよー。あれか？ 今日が10月7日で『107』つて語呂合せから『盜難防止の日』に制定されているからか？ お前どんな守護霊が付いているんだってばよー！」

「落ち着いて下さー松風」

「その後も原付のひつたくりも田撃してな。ちょうど俺も原付に乗つてたから、その犯人を追いかけたんだぜ。いやー、カーチェイスみたいで面白かったぜー！」

「何といつか……実にキャップらしいが……」

「本当にキャップさんらしいんですけど……」

「ここへ……良い悪い関係なく事件に遭遇する星の元に生まれてんだな……」

10月8日は？

「今日10月8日は『足袋の日』なんですよ」

「ふーん。なんでだ？ 語呂合わせとか関係ねえよな？」

「それはですね。日本足袋工業懇談会が1988年・昭和63年に制定しまして、10月以降は七五三・正月・成人式と、着物を着る機会が多くなるという事で、漢数字にすると末広がりで縁起のいい8日を『足袋の日』としたそうです」

「なるほどねえ。やけに詳しいじゃねえかまゆつち」

「まゆつちは小さい頃から着物をたくさん着てんだぜ。それぐらいの知識持つていて当然じゃねえか」

「で？」

「え？」

「それいがいつたいぢつしたつてんだ？ 僕様にはあまり関係ないんだけどな」

「いーいーいー一つ小糸なダジャレをー」

「なあなあまゆつち。今度足袋を219足買こに旅に出よつせ」

「それはまだぢつしてですか？」

「足袋を219足買いに『足袋219』つてな！」

「何故だろう……その寒いダジャレを聞くと、俺様の胸に今、猛烈に懐かしい何かが込み上げてきやがるぜ」

10月8日は？（後書き）

ちょっとした中の人ネタ。歳がばれそうですね。

10月9日は？

「『トラックの日』『塾の日』『道具の日』『東急の日』ね……」

「タカラさん？ 携帯電話を眺めてなにをしているんですか？」

「ああ、まゆ。今日がなんの日なのか気になつてね。ちょっと調べていたんだ」

「そうなんですか」

「知つてた？ 今日は他にも『世界郵便デー・万国郵便連合記念日』でもあつて、全世界を一つの郵便地域にする事を目的とした万国郵便連合が発足した日もあるんだって」

「最近は携帯電話やパソコンの普及で手紙のやり取りは少なくなつたつて聞きますけどね」

「まゆは結構手紙書いてたよね？ 癖なの？」

「私はただ友達がいませんでしたので携帯電話を持っていなかつただけなんです……」

「えつと……ごめんね」

10月10日は？

「10月10日はいろんな記念日があるみたいなんだけど、その1つに『田の愛護デー』があるんだって」

「記念日語り好きだなモロ。で？ どんな記念日なんだ？」

「うん、1931年・昭和6年に中央盲人福祉協会が『視力保存デー』として制定して戦後に厚生省、現在の厚生労働省だね、そこが『田の愛護デー』って改称したんだ」

「でもなんで今日なの？」

「10月10日の『10』を横に倒すと眉と田の形になるでしょ？ そこからみたいなんだ。あ、ちなみに角膜移植のためのアイバンクも1963年・昭和38年の今日に開設されたんだよ」

「ふうん、そうなんだ……ねえ大和。もし私が失明したら手とり足とりぴったりと密着して先導してね？」

「『』は眼が命なんだろ？ その誇りを忘れる事はないと俺はお前を信じていろるだ」

「『』をやつてる自分が恨めしい……

「結局そつち方面に行くんだね京は……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3348w/>

真剣に私と貴方で恋をしよう！！外伝？～毎日が記念日 365日の小嘲

2011年10月10日14時00分発行